

『咬合の基礎とデジタル化

～シーケンシャルオクルージョンのコンセプトから咬合の基礎を学ぶ～』

近年の歯科業界全体のデジタル化は目まぐるしいものがあり、補綴装置の製作方法も変わりつつある。今はまだ歯科技工士がデザインした補綴装置を機械の力を借りて具現化し、最終仕上げをするのは技工士だが、この一連の作業にAIが参入することは時間の問題だと思われる。しかし、その匠の技術力はAIが真似できないところだと考えている。その高い技術力を身に付けるには、機能を回復させる事を目的とした噛み合わせの学問を学び、歯1本1本の形態や機能の説明から頭骸骨を意識した咬合の設計までを知る必要があると考える。

今回は、ナソロジーという咬合理論をさらに発展させた「シーケンシャルオクルージョン」のコンセプトをお伝えし、口腔内の設計には欠かせないセファログラムを使用した簡単な実習も織り交ぜながら理解を深めて頂けたらと思う。そして今現在、「咬合」をどのようにデジタルに落とし込んでいるかもお話しできればと考えている。